

第 629 回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

フリートーク



平成 29 年 7 月 26 日

BSn新潟放送

第629回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成29年7月26日（水）午後16：00～

2. 開催場所 新潟市中央区 新潟放送 6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員	相羽利子	委員	古賀豊
委員	正道かほる	委員	服部誠司
委員	高木言芳	委員	小原清文
委員	小島良子		

○委員側欠席者

委員	池田幸博	委員	佐藤元
委員	細田康		

○放送事業者側出席者

社長	佐藤隆夫	常務	島田好久
営業本部長	金田博幸	編成局長	増山由美子
情報センター長	丹羽崇		

事務局出席者

事務局員 和田司(広報部長)

4. 議題

1 報告事項 8月、9月の新番組、単発番組等について(各局長)

2 審議番組 フリートーク

この半年間(1月～6月)における

- ・TBSで放送されたネット番組
- ・BSNが自主制作した番組
- ・放送全般について
- ・その他

5. 議事の概要

佐藤新社長の挨拶、各局長からの2017年8月度、9月度の番組報告等に続いて、この半年間（1月～6月）に放送された番組等についてフリートークで審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- ネット放送の報道番組に関しては、“堅い”印象が続いている。良く言えば「安心できる」ということ。逆の言い方をすれば「若者に受けるのか？」という印象。若者に受けることがいいかどうかは別として、工夫の余地はあると思う。
- ネット放送のニュースは、特にサンデーモーニングの後半の硬派な時事分析が鋭い。報道特集は土曜夕方で外出していることが多く見逃しがち。NEWS 23は手堅い感じ。他局に比べ、全体に政治、政権に対して必要な批判を遠慮なく展開している感じを評価している。
- ネット放送の「ビビット」はもう少し一つのニュースを掘り下げではどうか。「新・情報 7 days ニュースキャスター」は週末のニュース整理に好適でよく見る。さらりとしたニュースへのさわり方は、この時間帯では違和感なく、良いと思う。
- ネット放送のドラマについては「逃げ恥」の好印象が強く残る。春期の「リバース」「小さな巨人」はほぼ欠かさず見た。力のこもった正統的なエンタテインメントになっていたと思う。
- ネット放送のバラエティについては、申し訳ないがしっかり視聴したことがほとんどない。「マツコの知らない世界」で垣間見るような、テレビ東京がよくやるような、素人のすごさや面白さを示す企画がもっとあってもいいような気がする。「世界ふしぎ発見」は安定感がある。近藤亨さんの話は、新潟として欲を言えばもっとワイドに展開してほしかった。「世界遺産」は子供たちにとって今は今の放送時間の方がいいわけだが、昔の放送時間（深夜）でゆったり楽しみたい気持ちが消えない。
- 米国においてトランプ政権樹立後、「フェイク・ニュース」という言葉が世界を駆け巡っている。我々、昭和生まれの世代には、想像も想定もできない事態だ。これでは、何が真実で何が虚偽かが分からなくなってしまい、世の中の価値判断が大きく揺れ動いているように思われる。しかしながら冷静に考えてみると、イラク戦争の際の大量破壊兵器の有無等、世論操作のための情報操作等は以前からもあったことが後に明らかになっている。
SNSがこれだけ発達していることが、フェイク・ニュースを我々レベルにまであつという間に拡散させる大きな要因である。フェイク・ニュースの発信者は、ニュースの内容の真偽でなく、内容が面白ければいいという発想で発信するそうである。また、そのニュースに広告がついてクリックされれば金儲けになるというので、そういった

輩が増えているそうだ。また、この広告費は SNS 運営者と発信者双方の収入になるという。SNS 運営者にも何らかの対抗手段がとれないものかと考える。

- BSNの自主制作番組に関して、「水曜見ナイト」は午後7時からの1時間番組をこれだけ長期に継続していることに敬意を表する。テーマが食に偏っている感があり、飽きられないかが心配だが。「情熱にいがた」も同様。地域のまじめな企業を紹介して価値がある。「なじラテ。」はなお荒削りの感が拭えないが、話の運び、テンポを大事に、磨いて楽しい番組にしてほしい。ラジオはこのところほとんど聞くことなく、申し訳ない。ただ、番審で取り上げられた「うつつの国」は日中間に横たわる重い課題を描いて秀逸だった。番審の審議番組でいえば、「カミフルへようこそ」は全く違うタッチの作品だったがそれぞれ地域の息づかいを伝えてくれて大変楽しめる、いい番組に仕上がっていた。
- BSNの自社制作番組、とりわけ審議会のテーマとなった「カミフルへようこそ」「佐渡の赤土と生きる」などは、地域からの情報発信として秀逸で、地域、人の魅力に焦点を当てた全国にも誇れるすばらしい番組であった。
こうした骨格ある本格的なドキュメンタリーは今後も継続して制作し、可能であれば誰もが目にとまる時間帯に放送して頂ければと思う。
この他、「情熱にいがた」、「水曜見ナイト」、「なじラテ。」、ラジオ自社製作番組も含め、様々な分野で新潟を題材に積極的な情報発信、番組作りをされている。
なかでも「水曜見ナイト」は、肩肘張らない番組運営のもと、様々な角度から徹底的に地域の食に拘っており魅力的である。
そして「情熱にいがた」は、新潟県内の優れた経営者の言葉や信念・心情を伝え、新潟経済の活性化に資する特色ある番組である。本にも纏められており、特に創業者や創業を目指す人にとっては、大きな指針となる。また、私ども金融機関にとっても貴重な資料であり、Part3 を期待します。
このように、自社製作番組については、地域密着から地域貢献へ、そして新潟をどう発展、活性化させるかといった一貫したポリシーも感じる。

【文責・番組審議会事務局】